

視察等報告(復命)書

三次市議会議長 様

報告者氏名 中原 秀樹

下記のとおり、視察が終了したので報告します。

視 察 委 員 会	三輝会、公明党、真正会 計 10 名
期 間	令和 8 年 2 月 10 日(火) 13:30～
視 察 先	国会 参議院会館
視 察 用 務	・多文化共生社会施策の推進支援について ・災害時の外国人支援情報支援について
視察先対応者	総務省 自治行政局国際室長 XXXXXXXXXX 様 一般社団法人 自治体国際化協会(クレア) 部長 XXXXXXXXXX 様 一般社団法人 自治体国際化協会(クレア) 主事 XXXXXXXXXX 様
概要及び所見	【概要】 <u>【多文化共生推進プランの取組】</u> ○在留外国人の推移については、1990 年ころから大幅に増加していると説明を受けました。2008 年のリーマン・ショック後には少し減少傾向であったものの、新型コロナウイルス感染拡大が落ち着いた 2022 年ころから 2024 年末時点においては、376 万人と過去最高を更新している。 ○在留外国人の国籍や地域別については、1980 年代までは中国や韓国が大半を占めていたが、1990 年代に入ってブラジルなどの中南米からの在留が増加している。近年では、ベトナムやフィリピンなどの東南アジアからの在留が増加していると説明を受けた。 ○都道府県別在留外国人の状況について、2019 年度と 2024 年度の比較資料から説明を受けました。その中で広島県は、全人口が 10 万人減っている中で、在留外国人数は、約1万1千人増加していて増加率としては、19,2%であることがわかった。 ○地域における多文化共生施策の推進については、 ①コミュニケーション支援→デジタル技術を活用した言語相談対応や日本語教室

②生活支援→就学前の日本語教室運営や医療現場での「やさしい日本語」の導入と普及

③意識啓発と社会参画支援→多文化共生キーパーソンを活用した地域づくり

④地域活性化の推進やグローバル化への対応→外国人の視点による魅力発信

⑤多文化自治体共生施策の推進体制の整備→複数自治体での外国人相談窓口設置など

○地方財政措置としては、

〈地方単独事業分〉

① 相談窓口での通訳業務の委託費・通訳機器の配備費 等

② 多文化共生アドバイザーの活用経費 等

③ 在住外国人向けの出前講座の開催経費や通訳・相談員の派遣経費 等

④ 外国人向け災害時の外国人対応を行うための人材養成経費 等

⑤ 不就学児童の把握のために行う訪問や電話等の調査経費 等

○JET プログラムとは、外国青年を日本に誘致、地方自治体等が小中高校での外国語教育・自治体での国際交流業務に活用するもので令和8年で設立から40年になる。

令和7年度の状況としては、アメリカ合衆国3032人、イギリス777人、カナダ521人をはじめとして、全体で5933人が日本に訪れている。

◇職種内容としては、○ALT：5418人 ○CIR：503人 ○SEA：12人

〔災害時の多言語情報伝達への取組〕

○災害発生時での被災外国人の抱える課題については、①言語の壁 ②余震等の概念が不足していることや、避難の必要性への理解不足 ③食生活・週間等の文化的な違いなどを、地域国際化協会等と連携して災害多言語支援センターを設置している。

○「防災基本計画」の中には、国は地方公共団体等と協力し、災害時に行政等から提供される情報を整理して、避難所にいる外国人被災者のニーズにマッチングできる支援をするため災害時外国人被災者情報コーディネーターを育成するとしている。

○災害時外国人支援情報コーディネーターは令和7年7月時点で、199名。（育成に要する経費は、特別交付税による措置でまかなっている）

○コーディネーターの役割は、災害時の情報収受→被災外国人に伝達。被災外国人のニーズ把握→地方自治体にニーズ伝達。

○コーディネーターの養成研修については、年に1回程度実施している。

〔自治体国際化協会（クレア）の取組〕

「自治体の国際化推進を支援すること等を目的とする自治体の共同組 1988年7月に設立」

総務部、交流支援部、多文化共生部、JET プログラム事業部の4つの部局がある中で「多文化共生部」について説明を受けました。

多文化共生のまちづくり促進事業では、①医療・保険福祉支援 ②防災支援 ③教育支援 ④労働環境整備 ⑤居住・生活支援 ⑥外国人住民の自立と社会参画支援などの事業が対象になる

市区町村、地域国際化協会等へは：上限300万円

○多文化共生マネージャーの育成・認定（令和8年2月時点で登録者数803名）

内容としては、地域の多文化共生推進の担い手として、日本人も外国人もともに暮らしやすいまちづくりを目指し、施策の立案。実践や関係者間のコーディネートを行う。

※広島県には35名がいる

○地域国際化推進アドバイザーの派遣については、クレアが窓口になり希望する自治体に必要名情報や適切なアドバイス、専門的知識経験者を提供している。

○クレアの災害時関連の支援については、災害時多言語支援センターの設置運営。※ワークシートを用いて自分の地域の流れを把握する。

○災害時多言語表示シートは、やさしい日本語を含む13言語で対応している。案内などの文例を平時に作成して避難所に保管することも取り組んでいる。

【所見】

今回総務省の方と、一般社団法人 自治体国際化協会（クレア）様から多文化共生社会での課題や取組を御教授いただきました。

日本においては、人口減少社会で労働者の不足などが問題視されている。コロナ以降では外国人の入国も増えていることがわかりました。行政はもちろんのこと、企業や地域の方との共生は大きな課題であると理解している。特に災害時のコミュニケーションがうまく出来るのか、そのために必要な準備は出来ているのかなど、三次市においても課題は山積です。総務省としては地域の実情に合わせて取り組んでいる外国人生活オリエンテーション事業では、新たな外国人転入者に対して、ゴミ捨てなどの生活ルールや行政手続きなど一回30分程度で出来るメニューがある。東広島の事例も見ながらとても参考になった。令和2年から取り組んでいる中で、対象の参加者からは「手続きやルールがすることが出来て暮らしやすくなった」と高い評価に事業の効果と成果の高さを感じました。

三次市でもまちづくりセンターで外国人への日本語講座が開催されているが、総務省やクレアの話では、支援事業を活用されていないものと伺った。今回学んだ支援策が三次市でも活用出来ることで、災害時を含めたコミュニケーションの拡充につながるものと感じました。

また、岡山県総社市では、外国人住民を中心に防災リーダーの養成研修を実施されている事例では、災害時における対応だけでなく、平時の防災訓練においても地域住民に対する指導役を務められていた。外国人住民が防災リーダーになってくださることで日本語の話せない外国人にきめ細やかコミュニケーションが出来ることに三次市でも消防団や自主防災などにも生かせる内容であると感じました。これからも、調査研究を深めて今回の研修を三次市のために生かして参ります。

以上

視察等報告(復命)書

三次市議会議長 様

報告者氏名 中原 秀樹

下記のとおり、視察が終了したので報告します。

視 察 委 員 会	三輝会、公明党、真正会 計 10 名
期 間	令和 8 年 2 月 11 日(水) 13:30~15:30
視 察 先	仙台市 3.11メモリアル交流館
視 察 用 務	・被災から15年を迎える本年、津波の経験から改めて防災意識を学ぶため
視察先対応者	せんだい3.11メモリアル交流館 職員  様  様
概要及び所見	【概要】 本施設の設置目的 ○2011年3月11日の大きな痛みとともに、数々の大切なことを呼び覚ますことになったあの日を起点にして、過去を見つめ直し、今までを振り返りながらこれからともに考え、語り合い、自由に表現することを目指しておられた。 「せんだい3.11メモリアル交流館」は、東日本大震災を知り学ぶための場所であるとともに、津波により大きな被害を受けた仙台市東部沿岸地域への玄関口であるため、記憶と経験を媒介にコミュニケーションを通じて知恵と教訓を紡ぎ出し、未来へ、世界へとつないでいく拠点として位置づけられている。 荒井駅は仙台駅から地下鉄東西線の13分の終点。この交流館施設は、駅と隣接した建物で、震災の記憶を後世に伝えるために計画され設置されていた。新井地区に建設することで、沿岸地域の津波被害や東部地域の自然の魅力を発信することも目的とされていることも伺う。 【IF 交流スペース】

○立体地図やスライドで当時の津波の状況が表されていた。説明員の話では、当時の被害はすさまじいものであるため、被災した方や見る人への配慮から地図への色分けや写真の選択などにできるだけ当時に生々しいものは載せないようにされているとのことでした。立体地図を見てもわかるように、仙台と言うところは海から続く広い平野であることがみてとれた。3月11日の災害までには多くの余震があったそうで、そのたびに津波警報が出されて住民は避難をされていたそうです。そのため本当に津波が押し寄せた時に避難の必要性を形骸化された人もいたと聞いた。日々の訓練はされていて当然速やかに逃げたことにより助かった人もいる。しかし、逃げ遅れた人の中には、津波は来ないものとゆだんがあったのかもしれない。400年ぶりに起きた津波には、これまで伝えて来られて歴史があった。それは、波分け神社の設置は、未来への継承であったに違いない。今回の津波でも、その神社付近まで押し寄せている。

【津波について】

津波は海全体が動いて、壁のように押し寄せるものであって1分間で600m(時速36km)すすむ。津波からは直線で走って逃げ切れるものではない。たとえ30cm程度の津波であっても歩くことも車で移動することも困難である。津波から身を守るには、とにかく高い場所へ避難することが大切。本来であれば登ることが許されない高速道路であるが、建設中だった高速道路に多くの人が逃げて助かった事例もお聞きした。その後、津波から避難できるように高速道路に工夫がされて津波からの避難が可能になっている。平野部分が多い地形から、13カ所の津波避難ビルが設置されている。

【2F 展示スペースでは】

震災被害や復旧・復興の状況などを伝える常設展と東部沿岸地域の暮らし・記憶などが年代順で伝えられていた。会場の床と机の天板には、津波によりひさいした東六郷小学校体育館の床材が使用されていた。

説明をしてくださった花淵さんは、被災者の観点から詳しくお話を聞かせてくださいました。津波の恐ろしさや避難生活の苦勞、復旧がすすんでも元の居住区域に住めない話など赤裸々に話して下さいました。

【所見】

東北地震から15年が経過使用としています。私は初めて仙台市に行かせていただきテレビやネットで見た映像を思い出しながら話を聞かせていただきました。多くの犠牲者が出た背景には、理由があったものと感じました。二日前の9日に前震だったと考えられマグニチュード7.3(震度5弱)が三陸沖に発生した。多くの方が避難をしたが、津波は来なかった。またこの前震のあとも小さい地震が続いた。正常性のバイアス(きっと今回大丈夫、前も平気だった等)もあったのではないかと。津波の想定を小さく考えた。平地が広いので高台までの避難が出来なかったなど、考えられことは多かったと感じた。しかし、400年前の教訓があったことも聞くととても残念な気持ちになりました。

災害後の避難所生活や仮設住宅生活についてもお話を伺いました。三次市は、津波の

	恐れはありませんが、避難所での課題や事前の避難訓練の必要性など、地域にあった防災マップなど改めて再確認することが大切だと感じました。
--	--

以上

視察等報告(復命)書

三次市議会議長 様

報告者氏名 中原 秀樹

下記のとおり、視察が終了したので報告します。

視 察 委 員 会	三輝会、公明党、真正会 計 10 名
期 間	令和 8 年 2 月 12 日(木) 10:00~12:00
視 察 先	・仙台市 楽天モバイルパーク宮城
視 察 用 務	・三次市観光大使の楽天イーグルス 宗山選手との三次市活性化について
視察先対応者	・株式会社楽天野球団 (東北楽天イーグルス) 営業本部 XXXXXXXXXX 様
概要及び所見	【概要】 三次市観光大使である、楽天イーグルスの宗山選手に企業・自治体で活用出来「セレクトプログラム」の調査研究。 説明を受けた内容で、三次市が活用しやすい取組として紹介していただいたプログラムとしては、 ① スポンサー権利の活用 イーグルスロゴや選手肖像の使用が可能。例えば、宗山選手のサイン入りグッズを活用したキャンペーンや、市内でのプレゼント企画などにも利用可能。 (選手サイン入りグッズセット1点) (サイン入り+定番商品セット1点) ② 楽天イーグルス公式 SNS での PR キャンペーン実施時には、イーグルス公式 SNS にて告知が可能。 三次市の観光・ふるさと納税 PR との連動も検討出来る。 (球団公式 SNS 告知4点) ③ 楽天モバイルパーク宮城でのブース出店

昨年スポットで実施いただいたブース出展も、ポイント活用での継続実施が可能。

④ 宗山選手応援ツアーの実施

観光チケットセットやスタジアム商品券を活用し、市民の皆さん向け応援ツアーの企画も可能。

(観戦チケットセット30枚 平日1点/休日2点)

(スタジアム商品券160枚 1点)

⑤ 宗山選手グッズの販売

セレクトメニュー外ではございますが、スポンサー権利を活用し三次市での宗山グッズも可能。

以上が年間300万円で30ポイントを付与して、そのポイントを活用して組み合わせて実施出来るメニューです。

【所見】

三次市の観光大使である、楽天イーグルス所属の宗山選手をもっと前面に出ていただくことで三次市の観光発展が出来ないものかと考えました。現在でも宗山選手の出身地と言うことで、三次市に訪れてくる人がいることを聞いています。三次市は、広島東洋カープのファンが多いかもしれませんが、仙台市の楽天イーグルスファンの方に、三次市のことをもっとアピールして、観光してもらう取組ができたらと思いました。

宗山選手を押している人が、三良坂町に来ている事例は本当に大きなことであると考えます。

上記のプランで、スポンサー権利の活用や楽天モバイルパーク宮城でのブース出店、宗山選手応援ツアーの実施など、300万円の予算内でも組み合わせ可能であると感じました。

以上

視察等報告（復命）書

三次市議会議長 様

報告者氏名 片岡 宏文

下記のとおり、視察が終了したので報告します。

	会派代表者	中原 秀樹	経理責任者	片岡宏文
視 察 議 員	三輝会 真正会 公明党 10 名			
期 間	2026 年 2 月 10 日（火）～ 2026 年 2 月 12 日（木）			
視 察 先	参議院議員会館 せんだい 3.11 メモリアル交流館 楽天モバイル最強パーク			
視 察 用 務	特別交付税の増額陳情 多文化共生等レク 防災交流館の視察			
視察先対応者	自治行政局国際室 ■■■■■ 自治体国際化協会 ■■■■■ 部長 ■■■■■ 主事			
概要及び所見	特別交付税増額要望の陳情 参議院議員会館 多文化共生推進プラン ・近年の在留外国人数は全国で 28.5%の増加率広島県は 19.2% 割合は 3.0%広島県は 2・5% ・地域における多文化共生施策の推進についてコミュニケーション支援や生活支援など 100 余りの事業を行っている。 ・J ET プログラム 外国青年を ALT や国際交流員・スポーツ国際交流員を自治体などで活用してもらうプログラム 三次でも国際交流員がいる。 ・自治体計画は市の 79%が作っていて三次市では未来共創ビジョンで明記をしている 災害多言語支援センター ・災害発生時被災外国人の抱える言語の壁など多様なニーズへの対応が課題になるため、都道府県や政令指定都市等で災害多言語支援セン			

ターを設置している。

- ・平時は自治体と地域国際化協会などがセンターの設置に関する協定を締結している。

- ・広島県では三人のコーディネーターがいる。

一般財団法人 自治体国際化協会（CLAIR）

- ・多文化共生のまちづくり推進事業として３００万円の助成があるが三次市では使われていない。

- ・多文化共生マネージャーは広島県で３５名三次は０名

- ・地域国際化推進アドバイザーを経費をクレア負担で派遣ができる。

せんだい 3.11 メモリアル交流館

地下鉄東西線を整備途中に東日本大震災が起こり荒井駅敷地内に伝承施設として作られた。

仙台では 400 年ぶりに大きな津波に襲われて約 9 メートルだったが高速道路があったため途中で止まった。

その他の地域では 20 メートルの津波もあった。

当時は高速道路は登れるようになっていなかったがよじ登って助かった人もいる。現在では途中で登れるように作ってある。

荒浜小学校が避難所になっていた。体育館にあった備蓄品を何かあってはいけなかったので当時の校長先生が三階の教室に移して助かった。

近年の地震では津波が来ていなかったのが気が緩んでいた所もある。

地震から津波まで時間がかかったこともあり避難から自宅に忘れ物をとりに帰って流された人もいる

楽天モバイル最強パーク

三次市出身の観光大使の楽天ゴールデンイーグルスの宗山塁選手が活躍をされている本拠地楽天モバイル最強パークの施設を見学をさせていただいた。

練習場や普段見れない細部まで見学させていただき貴重な経験をさせていただきました。

視察等報告(復命)書

三次市議会議長 様

報告者氏名 中原 秀樹

下記のとおり、視察が終了したので報告します。

視 察 委 員 会	三輝会、公明党、真正会 計 10 名
期 間	令和 8 年 2 月 10 日(火) 13:00~17:00
視 察 先	・衆議院第一会館、衆議院第二会館、参議院会館
視 察 用 務	・広島県選出国會議員へ特別交付税陳情活動(13 名) ① 岸田文雄議員 ② 石橋林太郎議員 ③ 寺田 稔議員 ④ 小林史明議員 ⑤ 平林 晃議員 ⑥ 斉藤鉄夫議員 ⑦ 新谷昌義議員 ⑧ 平口 洋議員 ⑨ 宮沢洋一議員 ⑩ 越智俊之議員 ⑪ 西田英範議員 ⑫ 森本真治議員 ⑬ 三上絵里議員
視察先対応者	・国會議員及び秘書対応
概要及び所見	【概要】 *別紙に添付。

© 2004 Blackwell Publishing Ltd

以上